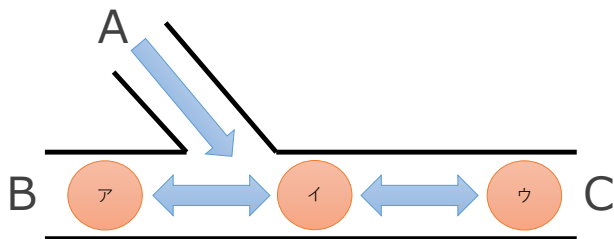


テスト技法・設計手法演習

以下のような道路があります。



Aがこの道路の入口になっており、BとCが出口になっています。
ア〜ウは「そのまま直進しても良いけれど、反転して移動しても良いポイント」となっています。

入口A から道路に入った人は、最初は必ずC 向きに進み、イ に着きます。その後、A へ戻ることはできず、道路の中を通過して、B かC の出口から出ます。

<p>たとえば、山田さんは</p> <p>A から入り、イ に着いた。 反転してB に向かい、ア に着いた。 反転してC に向かい、イ に着いた。 直進してC に向かい、ウ に着いた。 直進してC から出た。</p> <p>つまり山田さんは、反転を2 回行って、 A → イ → ア → イ → ウ → C というルートを通ったことになります。</p>	<p>また鈴木さんは、</p> <p>A から入り、イ に着いた。 直進してC に向かい、ウ に着いた。 反転してB に向かい、イ に着いた。 直進してB に向かい、ア に着いた。 直進してB から出た。</p> <p>つまり鈴木さんは、反転を1 回行って、 A → イ → ウ → イ → ア → B というルートを通ったことになります。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

N とP

N を「反転回数の上限」とします。言い換えるならN は「その回数までは反転してかまわないという数」です。
P を「A から入ってB から出るルートの種類の数」とします。

N = 0 の例

もしもN が0 の場合には、直進しかできませんので、
A → イ → ウ → C
という、C から出るルートしかありません。したがって、C から出るルートの総数P は、0 になります。

N = 1 の例

もしもN が1 の場合、B から出るルートは、
A → イ → ウ → イ → ア → B
A → イ → ア → B
という2 種類があるので、P は2 になります。

N = 4 の例

もしもN が4 の場合、B から出るルートは、
A → イ → ウ → イ → ア → B
A → イ → ウ → イ → ア → イ → ウ → イ → ア → B
A → イ → ウ → イ → ア → イ → ア → B
A → イ → ウ → イ → ウ → イ → ア → B
A → イ → ア → B
A → イ → ア → イ → ウ → イ → ア → B
A → イ → ア → イ → ア → B
という7 種類があるので、P は7 になります。

問題

N が与えられたとき、P を出力するプログラムを書いてください。

この問題は、2015年に結城浩氏がとあるWebサービスで出題した問題です。